

昭和42年度

秋山合宿

報告書

10月1日～10月10日

酒沢 BC

☆

☆

形が印は彼が星

☆

一休の星

信州大学山岳会
長野山岳部

雪と雨と晴天の中で過した瀬沢での一週間。最終日に我々の最も恐れていた事態を招いてしまった。

ここで加藤一作の死を貴重な経験として今回の事故の直接原因究明はもとより、現行の部が欠けているものは何かを探り、二度と再びこのような不幸を起こすまいと注意しています。

正式な生書が行われるまでの資料をもとに関係者への批判をいたさず、今後の部が部員の志大山岳会の指針とするつもりです。

向後利彦

昭和42年度 秋山合宿

目的：岩登の基礎技術訓練と実践
主に「スリーライミング」技術の修得

期日：昭和42年10月10日 ~ 10月10日

場所：穂高岳周辺(B.C.圏内)

構成

C.L.	向後	利彦	
S.L.	市野	史明	
装備	吉野	英夫	
ESSEN	大谷	敬	富岡 光子
燃料	粟林	良裕	
医療	安向	孝治	
会計	青木	郁生	
記録	青木	郁生	安向 孝治
長象	大野	照幸	

部長 清水 悟郎 信大教育学部国語科教授

~~〒185-8501 長野市吉田~~

顧問 石田 光夫

工学部通信科教授
長野市若里信大工学部官舎

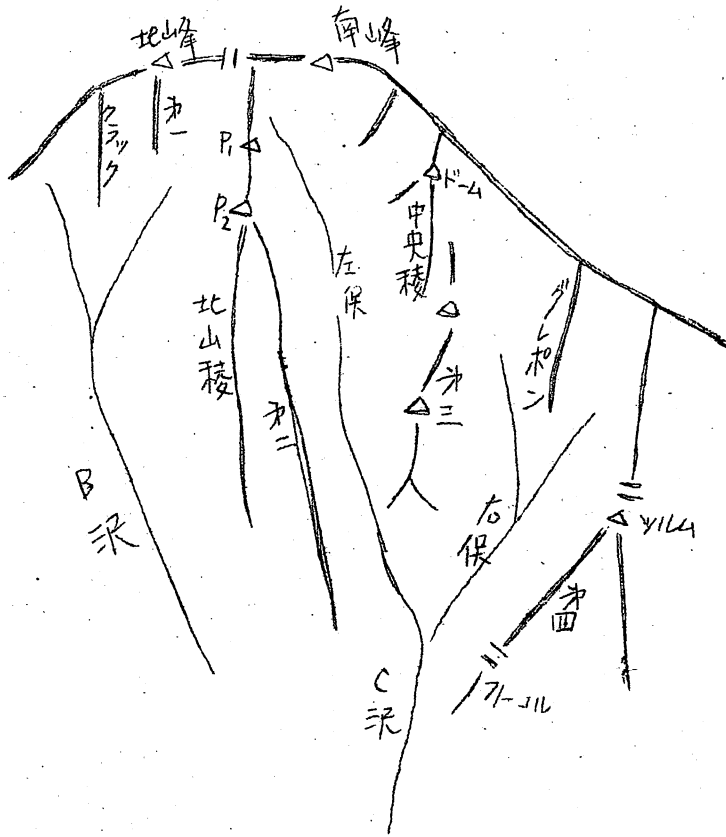
齋藤 豊

教育学部助教授
長野市吉田広町信大教育学部
吉田官舎

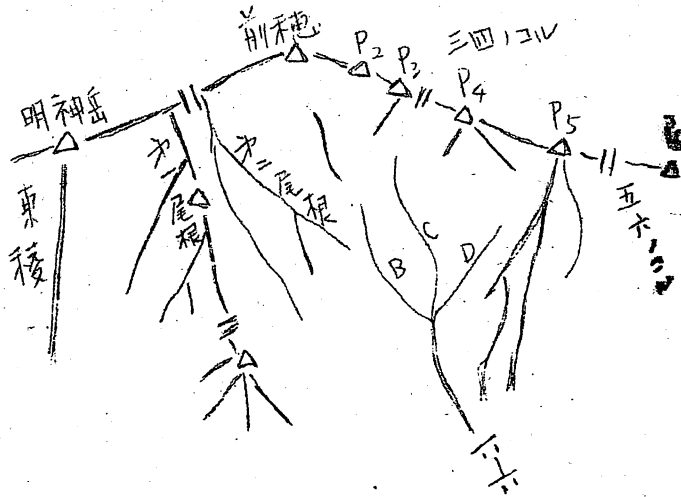
監督 百瀬 斐敏

梓川高校教諭
松本市岡田区松岡 51
tel (3) 3840

滝谷概念図



奥又白谷概念図



駒井 皓	横尾	湘沢	滝谷才2	滝谷才4	北穂	北穂	北穂	中央カゴ	五峰リッジ
宇都宮 昭義	横尾	湘沢	滝谷才3	滝谷才2	北尾根	北穂	北穂	下山	
向後 利彦	横尾	湘沢	北尾根	クラック	北穂	北穂	奥又C沢	松高	
加藤 一作	横尾	湘沢	奥又の池	滝谷湖行	滝谷湖行	北穂	北尾根上半	甲南	
市野 史明	横尾	湘沢	滝谷才3	北穂東稜	ドム中央稜	北穂	中央カゴ	又白カ-尾根 -B-A	
井原 学							入山	西穂	
吉安 尚夫	横尾	湘沢	北穂東稜	クラック	奥穂東北稜	北穂	奥又C沢	明大	
小林 元紀		横尾	滝谷才2	北尾根	ドム中央稜	北穂	北尾根下半	ピョ-フ 北壁	
扇 能 清			湘沢	奥又の池	滝谷才3	ドム中央稜 下山		入山	
吉野 英夫	横尾	湘沢	北穂東稜	才3	ドム中央稜	北穂	ピョ-フ 北壁	西穂	
青木 郁生	横尾	湘沢	北尾根	才4	北尾根	北穂	北尾根	松高	
守岡 孝治	横尾	湘沢	奥又の池	滝谷湖行	滝谷湖行	北穂	北尾根下半	北穂	

大谷 尚文	横尾	湘沢	湘沢	北尾根	北穂東稜	奥穂 東北稜	北穂	北尾根下半	西ホ
栗林 良裕	横尾	湘沢	湘沢	奥又の池	北尾根	北穂	北穂	北尾根上半	ピョ-フ 北壁
大野 照幸	横尾	湘沢	湘沢	北穂東稜	才2	北穂	北穂	北尾根下半	甲南
富岡 ます子		横尾	湘沢	北穂東稜	北尾根	下山			
井口 隆夫			湘沢	北穂東稜	北尾根	北穂	北穂	ピョ-フ 北壁	西穂
佐藤 正敏			湘沢	北尾根	北穂東稜	北穂	北穂	北尾根上半	西穂
森下 妙子					湘沢	北尾根	北穂	北尾根下半	明大
牧田 あ子			湘沢	奥又の池	北穂東稜	北尾根	北穂	北尾根下半	明大
陶川 絹子					湘沢	北尾根	北穂	北尾根下半	五峰リッジ
新谷 剛		横尾	湘沢	北穂東稜					明大
岡村 知彦		横尾	湘沢	北尾根					
橋本 章						湘沢	北穂	北尾根下半	北穂
石田 先生	横尾	湘沢	湘沢	北穂東稜	下山				
岩井 先生						湘沢	北穂	下山	

秋山合宿行動記録

10月1日

5:30 長野駅集合

5:56 長野駅発

8:10 松本着

大野,安間,栗林合流

9:30 新島々発

11:30 上高地着

12:00 " 出発

12:40) 明神 昼食

13:00

13:40) 徳次

14:00

14:50 横尾 T.S 着

10月2日 雨

次殿

駒井,小林,富岡,新谷,岡村合流

10月3日

4:30 ESSEN

6:00 横尾発

6:55) 本谷橋

7:05

8:05) 1本

8:13

8:43 廻沢 B.C.

9:30 設営終了

15:00 扇野,井口,佐藤,牧田

松本より合流

10月4日

○北穂東稜

(L) 吉安,新谷,大野,吉野,井口,富岡

石田先生

6:00 B.C 発

8:50 北穂 P.

11:25 白出 コル

13:05 B.C 着

○奥又の池

(L) 加藤,扇野,安間,栗林,牧田,

6:00 B.C 発

6:50 5,6の コル

8:00 奥又の池

10:30 踏変点

11:00 前穂 P

14:10 白出の コル

15:05 B.C 着

○北尾根

(L) 向後,岡村,青木,大谷,佐藤

6:00 B.C 発

6:40 5,6の コル

9:55 前穂 P

11:00 奥穂

14:10 B.C 着

○滝谷才2

駒井,小林

6:00 B.C 発

8:53 取着

11:50 水野,クラック

12:50 北穂小屋

○滝谷才3

宇都宮,市野

6:00 B.C 発

7:50 北穂小屋

才4, 駒井, 青木

12:00 取着
14:00 発攀終予
16:15 B.C 着

10月5日

◦ クラック
向後吉安
6:00 B.C 発
8:15 取着
10:00 X がネコル
11:40 発攀終予
14:00 B.C 着

◦ 滝谷才2
宇都宮、大野

◦ “ 才3
扇能、吉野
6:00 B.C 発
8:20 取着
11:25 終予
13:55 B.C 着

◦ 滝谷翔行
加藤、安間

6:30 B.C 発
8:00 北穂P
10:50 南岳小屋
13:30 槍平小屋

10月6日

6:45 槍平小屋発
8:00 雄滝
12:00 ナメ滝
1:30 D沢分岐桌
2:30 C沢左俣
4:40 水野クラック
6:00 B.C 着

10月5日

◦ 北穂東稜
市野、大谷、佐藤、牧田

6:05 B.C 発
8:30 北穂
11:45 白出、コル
1:10 B.C 着

◦ 北尾根
小林、栗林、井口、富岡

10月6日

◦ ドーラ中央稜
市野、扇能、小林、吉野

6:05 B.C 発
11:00 取り下り
3:05 終予
4:50 B.C 着

◦ 北穂
向後、栗林、井口
駒井、大野、佐藤
Peak で遊ぶ

◦ 奥穂東北稜
吉安、大谷

6:00 発
7:05 東北稜
10:10 終予
10:25 奥木

11:30 ジャンタル4下
1:00 奥穂
1:40 吊尾根最低コル
2:32 B.C

◦ 北尾根
宇都宮、青木、陶川
牧田、森下

10月7日

沈殿

10月8日

○北尾根上半

加藤 青木 栗林 佐藤

7:00 発

8:00 5.6のコル

10:00 3.4のコル

11:50 B.C

○北尾根下半

小林 安南 大谷 大野 橋本
陶川 森下 牧田

7:00 発

8:00 5.6のコル

12:30 最低コル

1:30 B.C

○ピョーブ北壁

吉野 井口

5:45 発

6:35 2ルンセ押出し

8:05 取りつき

11:30 終了

12:40 屏風頭

○中央カンテ

駒井 市野

5:30 発

6:30 2ルンセの押出

8:10 取りつき

12:30 Aフェイス基部

2:20 終了

2:20 屏風の頭

4:30 B.C

10月9日

○松高

向後 青木

7:00 B.C発

7:50 5.6コル

9:40 取りつき

11:50 終了

○五峰 リッツ

9:00 取りつき

11:50 転落を確認し登攀中止

○甲南

加藤 大野

6:55 B.C 発

7:50 5.6コル

9:20 T.I.

9:35 取りつき矣

11:10 ハング下

11:50 加藤 滑落

○奥又ノ尾根 B.A face

市野 佐藤

6:55 B.C 発

7:35 5.6コル

8:30 奥又の池

10:20 オノ尾根 P₁

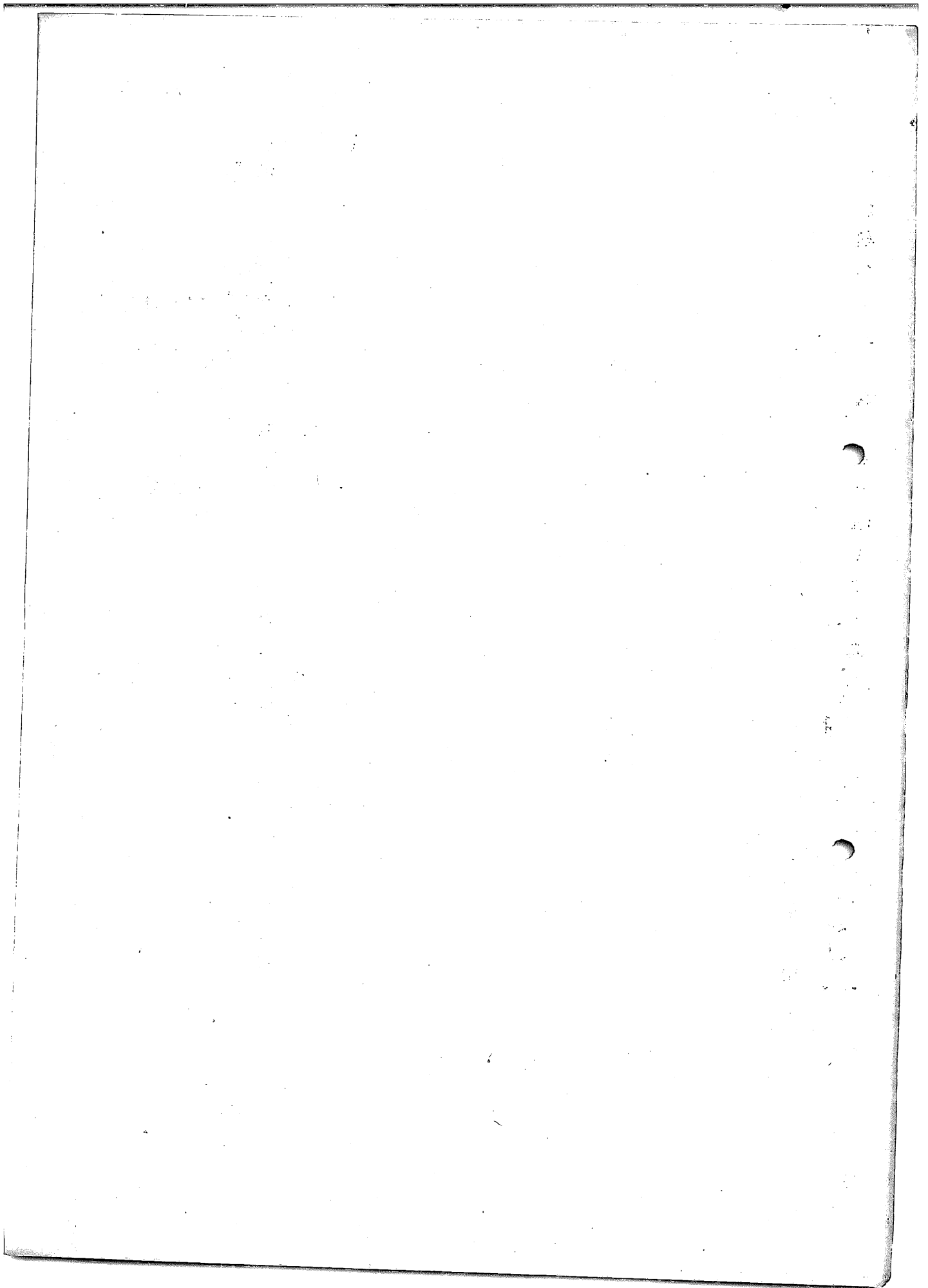
12:00 登攀開始

3:30 終了

5:30 B.C

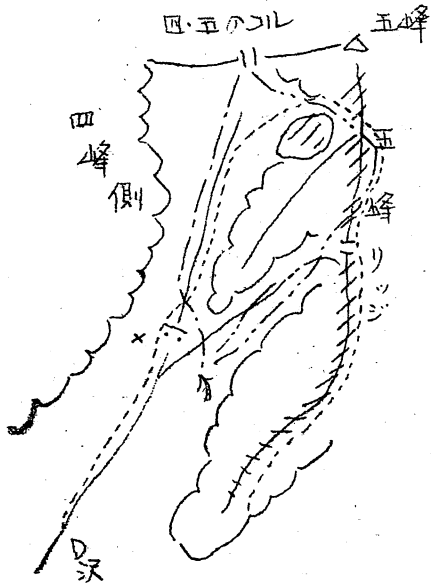
山下 新井 森下

中村 新名 野田



9日 加藤滑落後の行動

D沢周辺概念図



- 破線 駒井
- 一点鎖線 向後・吉守・青木・橋本
- 二点鎖線 新谷
- 三点鎖線 吉守・陶川
- ↓ 加藤確認地点(現場)
- × ヘルナット

15:30 駒井 - 陶川 加藤滑落を自撃
 駒井 単独でD沢下降 加藤確認できず5.6→4.5
 陶川 4峰パーティーへコール

15:50 向後 - 青木・吉守 - 森下・新谷 - 牧田の順で合流。
 16:00 小休止

16:10 陶川のコール届く。

16:30 新谷先行して現場へ
 他4名 女子2名を7分7秒して4峰下降。

16:40 駒井と合流

16:50 新谷 - 向後 上より遺体確認の報入る。

たぶらトランシーバーを駒井に残して向後・吉守
 青木 D沢下降 2:20 現場

2:00 V.5-西穂パーテイ 交信通じらる。
駒井・物田・森下 5.6のころへ
駒井 4.5へひまかえあ。
物田・森下 B.C.へ

大野

テラスより後続の立命館大学山岳部員3名により
確保されながら下へ。
その際、切れ残りのホイルをフィックスする。
その後、D沢出口より5.6のころB.C.へ

3:00 吉野 陶川と5峰リッジよりおろす。

トランシーバー体勢確立。
現場——4.5のころ——B.C.

3:30 橋本 現場へ。
青木・陶川 伝令を持たせB.C.へ
5:00 B.C. 崩れより下へ連絡

加藤 一作 10月9日正午頃 北尾根四峰甲南ルート
より滑落。
午後3時 新谷・向後・吉安・青木で確認。即死。
百瀬監督 遺族、O.B.関係、警察。
宇都宮昭義 理夜。(S.A.C.) 学校関係

4:00 井原・安間 ショーフ・ホイル・三つ道具・医療品
サスペンションを持て4.5へ
安間 4.5へ残留。駒井・井原 5.6に現場へ。
吉野 夕倉を持て4.5のころへ

● 新谷、向後、吉安、橋本 現場より下降
運体収容を明日に決定。

途中 駒井、井原と合流 与峰リッジにカスペンダー
シユラフとテボ。

● 与.6のコル
4.5川 与.6へ 宇間、吉野
夕食とトリ一服ある。

● B.C. 帰天
夕食

● 行動と決定

● 本へ現状報告 吉野

● 糸屋の午配 大谷

● B.C. 残留 井原、佐藤、井口、陶川、牧田、森下
Esson 当 女 3 名

● 峰ピー7 大野

● 峰とリッパ 栗林

● 体収容 新谷、駒井、向後、市野、小林、吉安
前野、青木、栗林、宇間、橋本

トランシーバー ⑥ — ④ — ③

⑥は松高尾根をへて上高地へ。

● 吉野、大谷、下山
他 シユラフにもぐる。

4:00 エッセン

5:00 新谷他11名(④⑤⑥) 出発

5:50 5.6の川
-6:00 大野、5峰へ

6:50 ⑥ 現場
⑦ 四峰と1つき

8:00 準備完了、出発

9:05 5峰ロッジのと1つき
-10:00 体勢立て直し。

11:20 奥又の池の下
-12:30 ① 淵沢より佐藤、オ1屋舎持参
② 下より岡村、宇都宮、藤本、内藤、笠原合流
③ 下よりE作る
④ 青木、安間、栗林、佐藤 B.C.へ
⑤ 大野、5峰より B.C.へ
⑥ 井原他 8名 淵沢 B.C. 徹集隊

1:30 松高ルンゼへ オ2屋舎
-2:10 加藤の兄さんと会う。

4:20 松高屋根と1つき
-4:40 百瀬先生、着藤先生、石田先生、菅井O.G
と合流。

7:00 下よりの自動車は新村橋より20分の所まで待機。
合流、遺族と対面。

10:30 火葬

10月11日 午前1時 解散 西条屋へ。

奥又山行報告

10月19日 ~ 10月20日

Member

1. 甲都宮 昭義、駒井 浩、吉安 尚夫、小林 元紀
金子 鉄男、大野 照幸

百瀬 監督 (10月18日おり合流)

目的

1. 原因調査 ルーラの再検討
用具の使用状況
2. 記録 写真をとる
3. 遺品の回収 (ヘルメット、時計、目鏡、ビッケルのシフト、
アブミ 等)
4. フック、下イルの回収
5. 洞沢小屋への返借

行動 10月 17日 ㊸ → ㊹ → ㊺
5:56 長野発 12:45 明神
8:21 松本発 1:45 新村橋
11:55 上高地発 2:00 本谷出合 談話

10月 18日 ㊻ → ㊼

4:20 Essen がつの為、視界効かぬと判断、沈め決め
吉安、小林ヒツテへ清算に向う。
10:30 交信に上りの天気は時の陽もさるといつので出発。

12=40 D沢入口 吉安・小林ヒコットの清算をたまたま合流

- ① 駒井一彦子 五峰リッジ
- ② 宇都宮一吉安 D沢
- ③ 小林・大野 D沢入口に残る。

② 下り連がる草付キテウスあり
ビナ・マブミ・シャフト・メネネ、時計 回収
D沢あり 水筒、ヘルメットを回収。

10月20日 ①

5=50 Essen

6=05 飛 百瀬先生、宇都宮、駒井、吉安 上へ
小林、彦子、大野、下りホソカ

10=50 下 宇都宮一吉安 甲南ルート下りまで
-11=05 百瀬、駒井 下り指示。

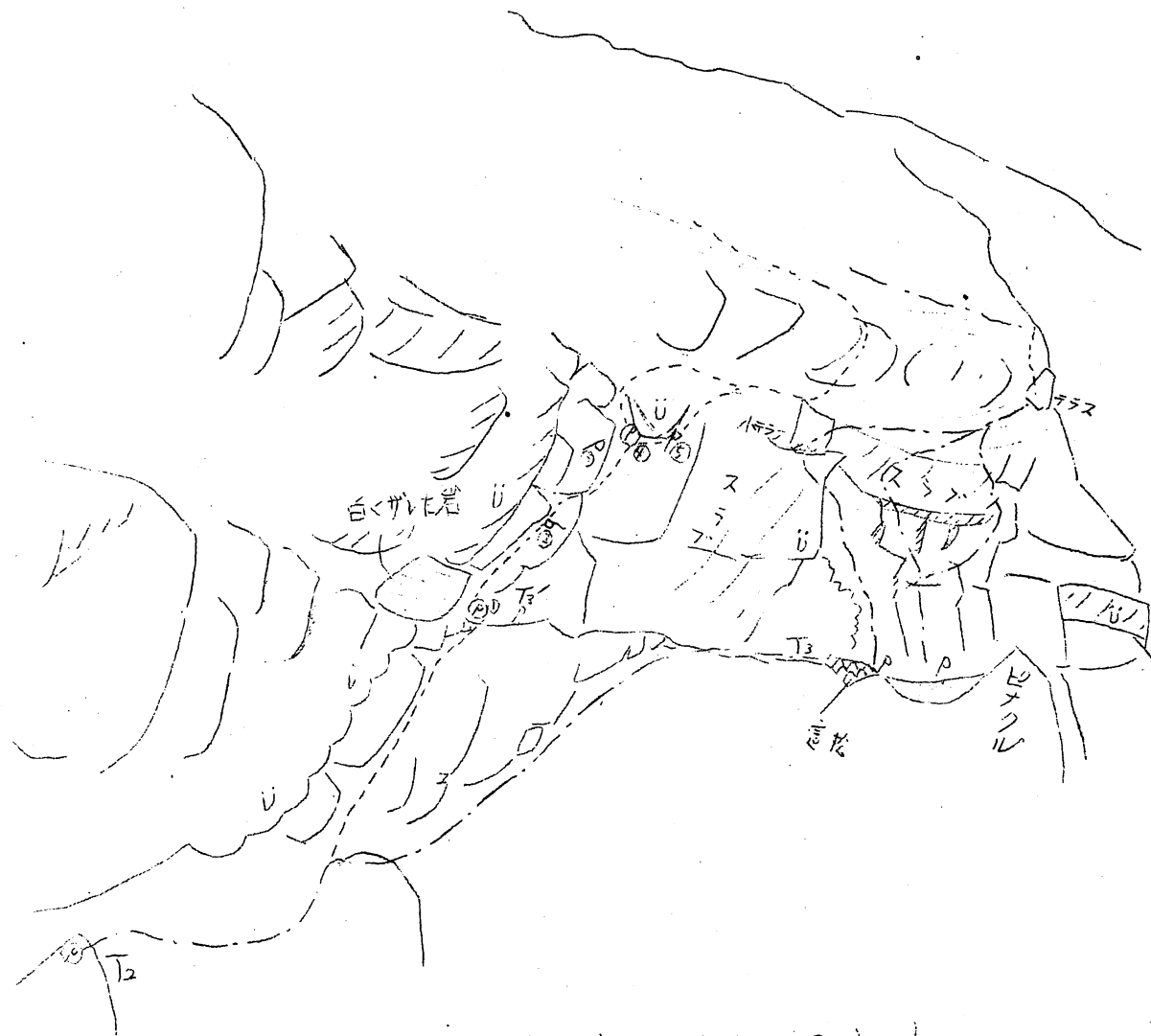
カインルの回収、及び ルートの確認。
用具の使用状況調査。

1=05 下
-05

4=10 河童橋。

成果 遺留品は全部回収、(残置されたマブミは未回収)
ルート判定 等と 予想外の収獲があった。

北尾根四峰甲南ルート

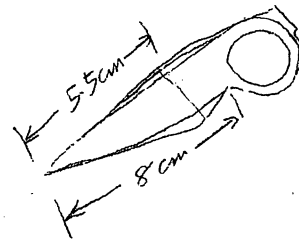


破線 加藤-大野 トレース・ルート
一点鎖線 ノルマル・ルート

装備
 ナイロン 40m 11mm
 ハーケン T3 Y3
 アタミ 2枚 18L x 10の4の 鉢
 ビナ 10 ハンマー 2

1. 直接原因

① ハーケンが抜ける。



① 立2ハーケン 秀山荘 かけり直し

抜け作業のさいがなかった事に判り、
 さいがなかったが先行パーティー
 加藤、ハンマーでさいがめがかった。

② ハーケンのビス2枚 ③ ビス1枚 ④ ビス3枚
 かけて ⑤ に ⑥ をかけ2乗り ⑦ を回収
 ットを直す瞬間 バランスをくずし ハーケンが抜ける
 ⑧ に は ナイルが通ってなかった為 ⑨ に ショック
 カリ ナイルがさし出る。 ⑩ - ⑪ の長さで加藤のセルアス
 りm位 ⑫ - ⑬ の長さで加藤のセルアス
 イルの長さ一致。
 ⑭ - ⑮ 12~13m

③ ナイルが切れた事に判り
 ① キンク 1ピッチ 終了後 大野がなおす。
 ② キズ 下山前の検閲に判りナシ。
 ③ 年数 昭和38年11月購入。
 我が部で使用せざると思っていた唯一の

加藤 添着の際、ハーケン③までナイロンは必
 ②に 700kg位のショックがかかった模様。
 大野 クリック・ビレーでナイロンにショック
 受けた。

④ ルートを調査した
 事前の研究は十分であったと思ふ。(3日前判り
 で毎夜本を讀んで研究していった。
 しからしはじめのルートであった為 先行
 びがけられた。

①

